



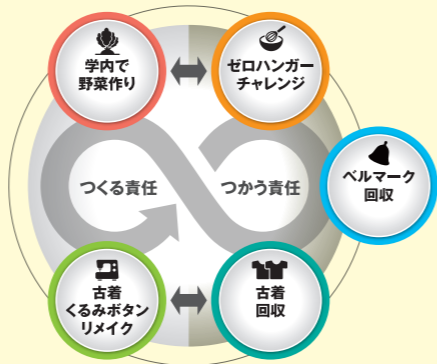
SDGs & Seig
Newsletter
2023-2024



「好き」から始めるSDGs

～自分の興味・関心から社会課題解決を目指して～

「好きなこと×SDGs」をモットーに学生目線でSDGsを推進する学生団体Petite Arche。設立4年目となる今年度は、昨年度に引き続き3つのプロジェクトを中心に活動しながら、新たなプロジェクトも始動させました。学内にとどまることなく、サステナビリティ推進センターと協力しながら、学外でもSDGsに関わる社会課題やサステナビリティについての活動や発信を積極的に行いました。



古着プロジェクト



古着プロジェクトでは、Goal 12「つくる責任 つかう責任」にフォーカスし、古着の魅力や再利用方法、古着がSDGsにつながることを発信する活動に取り組んでいます。

●サーキュラーファッションショー

今年度は埼玉県庁からお話をいただき、埼玉県民の日に開催された県庁オープンデーでの「サーキュラーファッションショー」に参画しました。学内で回収した古着と再生素材で作られた服を使って、多様性も取り入れながら古着の魅力を伝えるための6つのコーディネートを組み、それらをまとめてモデルとしてステージで披露もしました。また、SNS等でオシャレな古着の着こなし方の紹介も行い、より多くの方々に私たちの想いを伝える工夫をしました。



県庁作成展示ポスター

●「くるみボタン」制作ワークショップ

くるみボタン制作ワークショップでは、学内で集めた古着を切って専用のキットを使い、古着をボタンに生まれ変わらせる体験をする機会を作りました。簡単な上、デコレーションで自分の好きなボタンにできるということもあり、多くの子どもたちに興味を持ってもらい、古着の再利用の仕方と大切さについて楽しみながら伝えることができました。

プロジェクト概要

●サーキュラーファッションショー

日時：2023年11月14日(火) 13:05～13:25
会場：埼玉県庁 本庁舎中庭内 特設ステージ
企画・協力：埼玉県庁、大日本印刷株式会社、丸紅株式会社、森乳業株式会社、ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング株式会社、株式会社ISILK、株式会社STORY & Co. NewMake、Petite Arche (学生団体)、サステナビリティ推進センター

第3回古着回収

期間：2023年7月11日(火)～7月28日(金)
回収場所：聖学院大学構内4か所に回収ボックスを設置
回収枚数：95枚
企画：Petite Arche (学生団体)

●「くるみボタン」制作ワークショップ

企画：Petite Arche (学生団体)
サステナビリティ推進センター

埼玉県庁オープンデー「資源循環ワークショップ」

日にち：2023年11月14日(火)
場所：埼玉県庁 第三庁舎1階
参加者数：127名

エコプロ2023

日にち：2023年12月6日(水)・7日(木)
場所：東京ビッグサイト
参加者数：87名(6日37名、7日50名)



古着プロジェクト サプリリーダー
瓜田 勇吹
政治経済学部 政治経済学科 3年

くるみボタン制作のワークショップでは、興味を持った子どもたちが参加する様子を見て、自分の企画で子どもたちの心を動かすことにやりがいを感じました。今年度はメンバーや地域の方など、さまざまな方々に助けてもらう機会が多かったため、これからは自分もサポートをする側にも立ち、恩返しができるように頑張ります！

学食寄付メニュープロジェクト



2019年に開始された学食寄付メニュープロジェクトでは、学生食堂の売上金の一部を国連WFP (World Food Programme: 世界食糧計画) に寄付することで、世界の飢餓に苦しむ子どもたちへの学校給食支援を行っています。4回目の実施となる今年度は、Petite Archeのメンバーが手渡しでの食券販売を行い、寄付メニュー提供期間中に募金箱を設置して食堂利用者に寄付を募るなど初めての試みにも挑戦しました。



これまでやっていなかった新しいことに取り組んだ今年度は、メンバーが協力し合いさらにチームとして成長することができました。そして「おいしく食べて寄付につなげる」というテーマのもと、学生や教職員など多くの方々にSDGsを知ってもらえるプロジェクトとなりました。

プロジェクト概要

期間：2023年12月11日(月)～12月15日(金)
場所：聖学院大学4号館1階 学生食堂
企画：Petite Arche (学生団体)、株式会社レバスト、サステナビリティ推進センター
寄付メニュー：日替りプレート 430円(うち30円が寄付)
豆腐ドーナツ 150円(うち20円が寄付)



寄付金の総額 8,967円
(寄付メニュー5,630円+募金箱3,337円)
(給食298食分の寄付)



学食寄付メニュープロジェクト リーダー
生井 一気
政治経済学部 政治経済学科 3年

今回、初めてプロジェクトリーダーとなり、最初はリーダーとしてやっていけるかが不安でした。しかし、頼りになる仲間や教職員の方々と一緒に考えて活動したことで、準備から販売まで完遂できました。この経験から、人と関わる中で「思いやり」をもって自分の思いを伝える、コミュニケーションの大切さを学びました。

NEW! ベルマーク寄付プロジェクト

ベルマークプロジェクトは、ベルマークの寄付を学内で呼びかけ、回収されたベルマークを分別・集計し、教育支援を行うベルマーク財団*へ寄付することを通してSDGsのGoal 4で掲げる「質の高い教育をみんなに」に貢献することを目的としています。また、私たちがベルマーク付き商品を購入し、マークを寄付することで、Goal 12「つくる責任 つかう責任」にも寄与できると考えています。この取り組みを通してできるだけ多くの人にSDGs推進活動に参加していただければと思っています。

*ベルマーク財団(公益財団法人ベルマーク教育助成団)はベルマークを教育資金に変え、教育環境向上を目指す団体。



プロジェクト概要

回収期間：2023年10月23日(月)～2024年1月31日(水)
回収場所：サステナビリティ推進センターに回収箱を設置
回収枚数合計：780枚
企画：Petite Arche (学生団体)

野菜づくりプロジェクト

「農業」や「食」を通じてGoal 12「つくる責任 つかう責任」の達成を目指す野菜づくりプロジェクト。学内菜園では、昨年の秋頃から準備をしていた学内の畑で、トマトやなすなどの夏野菜などの栽培に挑戦し、収穫したさつまいもを使って焼き芋大会も行い、育てることの難しさ、楽しさを知りました。また、野菜を無駄なく使った埼玉県の郷土料理「ずったて」や「ゼリーフライ」の料理動画を作成して紹介することで、食品ロス削減の重要性について多くの方に伝える活動もしました。

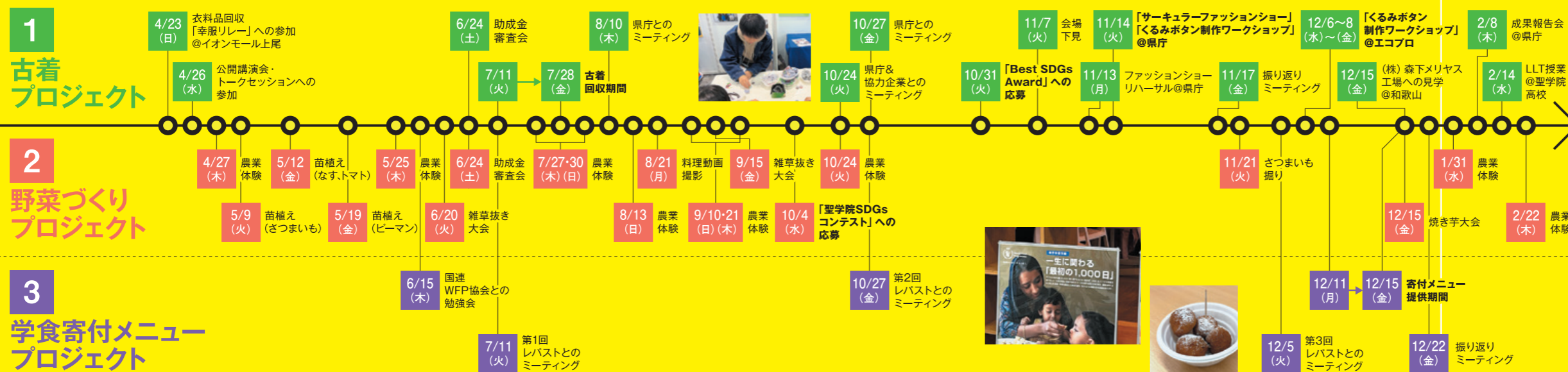


プロジェクト概要

企画：Petite Arche (学生団体)
・「いまここファーム*」での農業体験(月1回程度)
・学内での野菜づくり
・料理動画の作成・発信

*「いまここファーム」は、生産者と消費者をつなぐために、「いまここ」を大切にしながら野菜栽培、養鶏、農福連携を行なっている、埼玉県上尾市にある農園。

学生団体Petite Arche 2023年度の動き



その他の活動

11月11日(土)、12日(日)
SAITAMA環境フェア&子どもエコフェスティバル
埼玉県主催の「SAITAMA環境フェア&子どもエコフェスティバル」にてPetite Archeのプロジェクトの紹介を通して、小学生をメインにSDGsについてさらに興味を持ってもらえるよう発表を行いました。

12月6日(水)～8日(金)
エコプロ@東京ビッグサイト
「エコプロ2023」にPetite Arche9名が参加。ブースに訪れた小中学生中心の100名以上の方にSDGsを身近に感じていただくため、今年度の活動の紹介やくるみボタンのワークショップ、SDGsクイズを行いました。

「イケア サステナブルストアツアー」を実施

サステナビリティ推進センターでは、2023年9月15日（金）に北欧スタイルの家具や雑貨などを取り扱うイケア・ジャパン株式会社に協力いただき、IKEA新三郷で「イケア サステナブルストアツアー」を実施しました。当日は学生・教職員の19名が参加し、店内のレストランで環境に配慮して開発された食品を試食し、ショールームでは商品を通して、エネルギーや水を節約するキッチンや、食品の無駄づかいを防ぐヒントなどの紹介がありました。また、普段は見学できないバックヤードのゴミ・リサイクル分別エリアへの案内もあり、イケアの取り組むサステナビリティについて学ぶ貴重な機会となりました。



当日はたくさんの学生さんに参加いただき、IKEA新三郷でサステナブルな暮らしに役立つ商品や、生産から消費、消費が生産に戻る循環型、サーキュラービジネス、32種類にも及ぶごみの分別、イケアのビジネスにかかわる人々への公正と平等について紹介するストアツアーを行いました。ランチの時間も、イケアで大人気のプラントボールやプラントドックなどの動物性たんぱく質不使用のプラントフードメニューを楽しんでいただきました。

また、各部署の代表が集まって行うミーティングにも参加いただき、私たちにとって有意義な時間を過ごすことができました。

IKEA新三郷
ピープルアンドプラネット
ポジティブ チーム



SDGsとは？

2015年9月、国連加盟国（193か国）は、より良い将来を実現するために、15年をかけて極度の貧困や不平等、不正義をなくし、私たちの地球を守るための計画「アジェンダ2030」を採択しました。この計画が「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」です。SDGsは、ミレニアム開発目標（MDGs）で十分に手を打てなかった課題に加え、「国連持続可能な開発会議（Rio+20）」（2012年）で議論された深刻化する環境課題など、17の目標と169のターゲットに全世界が取り組むことで「誰も取り残されない」世界を実現することをめざしています。

（出典：グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンWEBサイト <http://www.ungcnj.org/>）

SDGsには、貧困や飢餓だけではなく、教育や性的マイノリティ、ワーク・ライフ・バランス、消滅可能性都市に関する問題など、日本でも身近な問題が取り上げられています。このようにSDGsは、直接的または間接的にすべての人々の生活に関係しています。

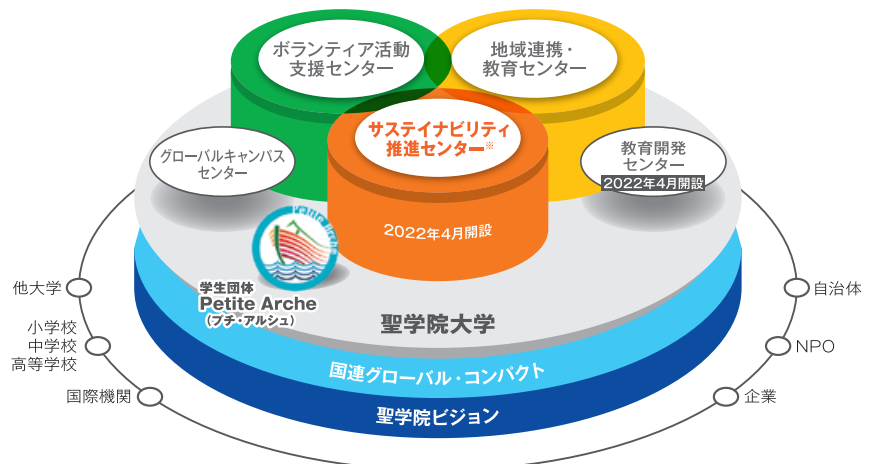


国連広報センターより引用

聖学院大学のSDGsの取り組み

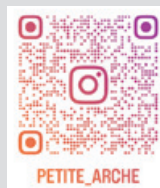
SDGsのD（Development）は、より良い社会に向けた「発展」が先進国にも必要なことを意味しています。SDGsの意義は、国や文化を越えた「共通言語」として、多様な人々やアイデアを結びつける点にあります。そして、「知の共同体」たる大学には、地域と世界をつなげる拠点として、地域の市民や企業、団体、行政などが連携・協働するためのプラットフォームとなり、グローバルな役割を果たすことが求められています。本学では、2019年より、学生・教職員が協働し、SDGs達成に向けた様々なプロジェクトを展開してきました。こうした取り組みのさらなる活性化のため、2022年に聖学院大学サステナビリティ推進センター（Seigakuin Sustainability Center: SSC）が開設されました。SSCは、2年間の土台作りを経て、2024年4月から聖学院大学サステナビリティセンター（英語表記および略称は変更なし）に名称を変更いたします。そして、学内外の諸団体・組織の連携・協働をさらに促進し、「持続可能な開発のための教育（ESD）」を充実させます。学生主体の活動も年々進化していますので、本レターなどをご覧いただき、是非、お気軽にお問い合わせください。

聖学院大学SDGsプラットフォーム



SDGs & Seig Newsletter 2023-2024

発行元／ 聖学院大学サステナビリティ推進センター※
Petite Arche
発行日／ 2024年3月30日



Petite Arche

E-mail: petite_arche@seigakuin-univ.ac.jp

← Petite Archeの活動はこちらから

Love God and Serve His People
聖学院大学
一人を愛し、一人を育む。

お問い合わせ サステナビリティ推進センター※（1号館1階1103教室）

TEL: 048-780-1050 月～金（9:00～17:00）

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号 E-mail: sustainability@seigakuin-univ.ac.jp

URL: <https://www.seigakuin.jp/about/sdgs/ssc/>



※2024年4月1日よりサステナビリティ推進センターに名称変更